



平成 30 年 11 月 28 日

# 福生市 定例記者会見資料

資料 3-5

～全国初の一棟丸ごと導入！～

## 市営高齢者住宅に次世代型の高齢者見守りシステムを導入します！

福生市では、平成 31 年 4 月から第二市営住宅の高齢者住宅で IoT を活用した見守りサービスを全国に先駆けて実施します。システムの導入にあたっては、今年の 5 月から約 2 か月半にわたる実証実験の結果、問題がないことが確認済みです。

この IoT 技術の導入により、高齢者の不測の事態でも自動通報されるなど、より安全な生活が実現します。

福生市では富士通株式会社多摩支店と協定を結び行った、センシング技術（人感・温湿度センサー）を活用した IoT 機器「リモートケアベース（RCB）」による実証実験の結果を踏まえ、平成 31 年度より新たな高齢者見守りシステムを導入します。なお、市営住宅一棟丸ごとの RCB の導入は、全国の自治体で初めてとなります。

RCB は、IoT の技術を用いて、音や人の動き、温度・湿度のセンシング情報を収集・分析し、異常の可能性がある際などには自動的にコールセンターへ通報されるため、入居者が緊急通報ボタンを押せない場合でも、安全・安心に生活できるようになります。

【対象住宅】第二市営住宅 B 棟 11 戸（1DK6 戸、2DK5 戸）

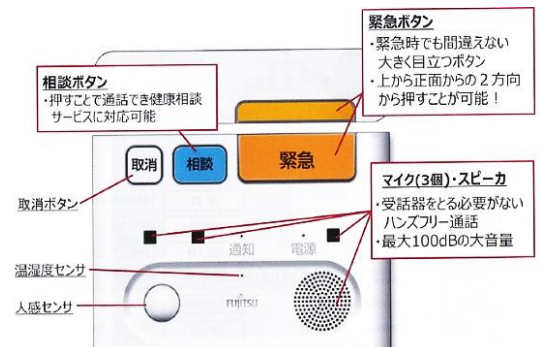
## ■機器・サービスの特長

### ①センシング（人感・温湿度センサー）による見守り

生活気配の有無・異常音、室内の熱中症レベルを常時見守り、異常検出時にコールセンターが状況を確認します（会話等のデータは収集しません）。必要に応じて、コールセンターから同じ建物に居住する生活協力員や在宅介護支援センターに通報します。

### ②コールセンター（健康相談）

入居者が「相談ボタン」を押すとコールセンターへ接続され、看護師に 24 時間相談が可能です。また、定期的にコールセンターから入居者へ連絡をし、RCB で検出している咳やいびきなどの情報を元に健康に関するアドバイスを実施します。



## ■導入による主な効果

- ①入居者が緊急通報ボタンを押せない状況でも、異常を検知した場合に自動通報されます。
- ②入居者は専門家に健康上の不安に関して 24 時間いつでも相談をすることができます。
- ③1,000 万円以上に及ぶ既存システムの更新コストが不要となり、15 年間運用した場合の総コストも 2 割程度の削減が見込まれます。また、機器の稼働状態をセンターで確認していることから、機器の故障が発生した場合にも、迅速な対応が可能です。
- ④コールセンターが介在することにより、緊急通報の誤報がなくなり、高齢者の安否確認などを行う生活協力員の業務の負担軽減が図られます。

【問合せ】まちづくり計画課住宅グループ ☎042-551-1961

介護福祉課高齢福祉係 ☎042-551-1751